住　吉　区　の　歴　史

― 住吉大社の歴史 ―

42期

Ⅰ　テーマ設定の理由

私は住吉大社の近くに住んでいて、小さい頃よくお参りに行ったが、歴史はほとんど知らなかった。そこで、昔から航海守護の神・和歌の神・おはらいの神として大阪の人々に親しまれている住吉大社と、それに関係する神社について調べてみようと思い、このテーマを選んだ。

Ⅱ　研究方法

［1］図書館・家等で文献や資料を集め、次の８つの項目に分けて調べる。

①住吉大社の位置　②境内の様子　③御祭神　④建て物の構造　⑤住吉大社の歴史
⑥年中行事　⑦楠珺社（なんくんしゃ）　⑧住吉神宮寺

［2］調べてわからなかったことは、住吉大社へ行き、神主さん等にたずねる。境内の様子、建て物のつくり等も見る。

［3］集まった資料・調べたこと・見たこと等を中心にまとめる。

Ⅲ　研究内容

①　住吉大社の位置

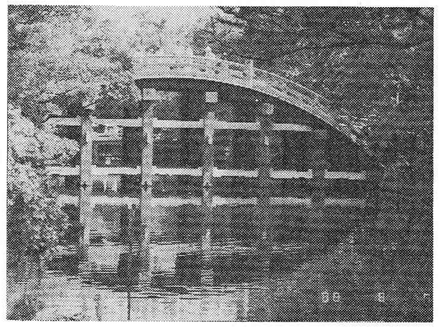
住吉大社は住吉区の西のはしにあり、周りは住宅や公園が多い。又、江戸時代・明治時代に建てられた家も数多く残っている。

②　境内の様子

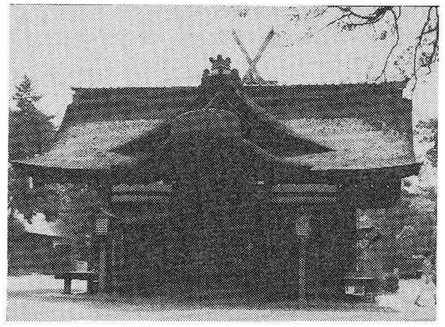
住吉大社の境内は広さ約１０万㎡で、緑が多く、とても静かだ。

阪堺電気軌道阪堺線の「鳥居前」駅を下車すると、すぐに一の鳥居が目につく。この鳥居をくぐって少し北へ行くと反橋がある。一般には太鼓橋とよばれ、住吉大社のシンボルとして親ししまれている。長さ２０ｍ、幅 5.5m、高さ 6.3mで、現在の石の橋脚は慶長年間に淀君が奉納したもの。この反橋を渡るのは昔は神様に限られていたといわれているが、今はだれでも渡ることができる。この橋を渡ること自体がおはらいになるという信仰もある。この橋を渡ると正面

反　　橋

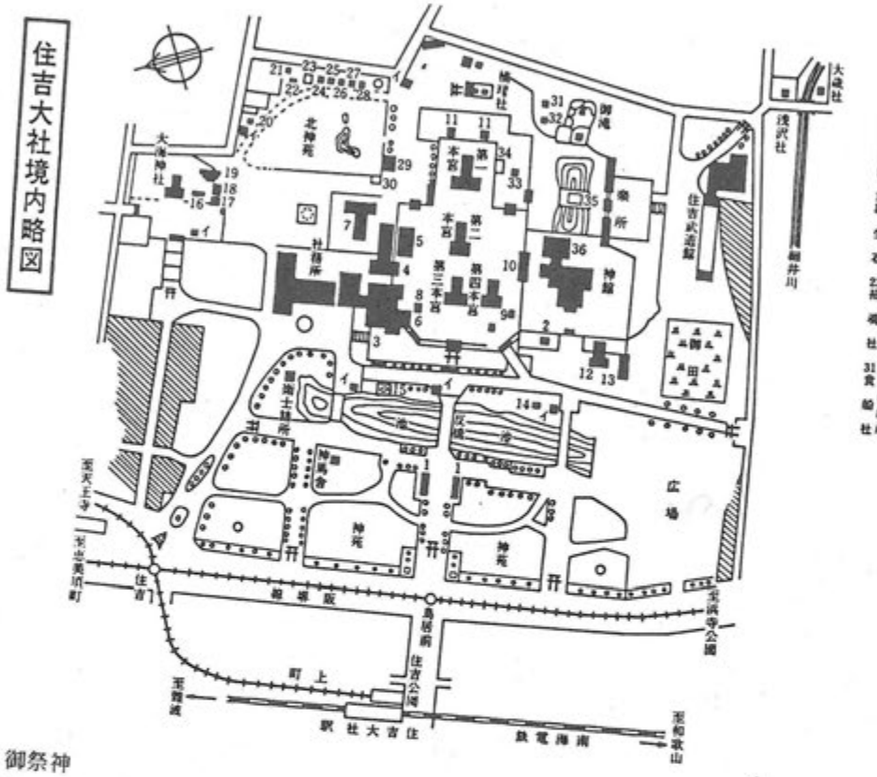


第三本宮



大門がある。この門をくぐると手前から第三本宮・第二本宮・第一本宮が並んでいて、第三本宮の右手に第四本宮が位置している。

その他、境内には毎年御田植神事が行われる御田（約２０ａ）や、楠珥社・種貸社・絵馬殿等がある。



③　御祭神

第一本宮　底筒男命（そこつつのおのみこと）

第二本宮　中筒男命（なかつつのおのみこと）

第三本宮　表筒男命（うわつつのおのみこと）

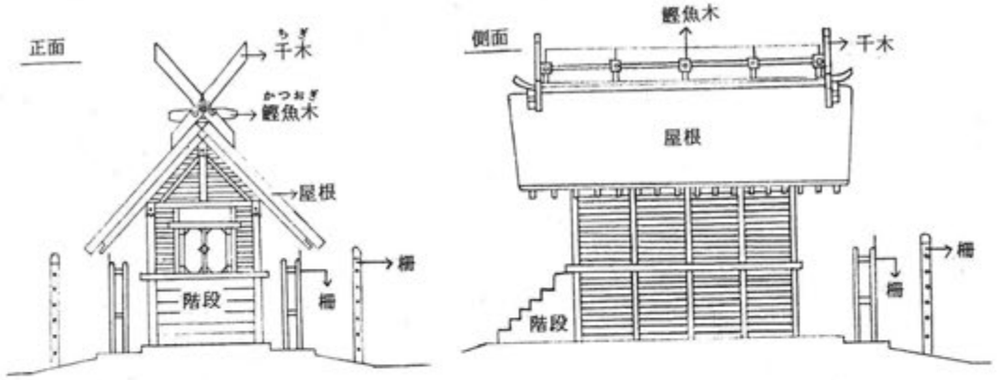
第四本宮　息長足姫命（おきながたらしひめのみこと）＜神功皇后＞

住吉大神は、イザナギノミコトが境原で身を清めたときに海の中から生まれた。

（イザナギノミコトはイザナミノミコトと共に、国土や山川草木を生んだと伝えられている。）

④　建て物の構造

住吉大社本殿は、「住吉造」と呼ばれ、あまり装飾を用いない直線的な構成は、単純な中にもどっしりとした古代建築の美を感じさせる。朱・白・黒の三元色に黄金の金具を使って建てられている。又、妻入りといって屋根の三角になっている方が正面になる建て方になっている。屋根は檜皮葺で、棟には四角の鰹木が五本のせてある。本殿は四棟とも同じ大きさで、縦7．８８ｍ、横 4.7m。本殿の内部は外陣、内陣の２間に分かれ、階段を上るとすぐに外陣になっている。



⑤　住吉大社の歴史

神功皇后は、新羅への遠征の時、表筒男命・中筒男命・底筒男命の三神の助けによってこれを無事平定して凱旋した。そして、皇后摂政十一年辛卯年（２１１）に三神を摂津国武庫郡菟原（現在の神戸市東灘区）の海岸に祭った。仁徳天皇（３１１～３９９）の時に現在地に移転し、雄略天皇（４５６～４７９）の時に神功皇后も住吉大社に祭られた。

祭神の由来から海上の守護神として漁業関係者や航海業者の厚い崇敬を集めた。江戸時代には朱印領２０６０石を受け、参勤交代の時に立ち寄る西国大名や、航海業者・船頭・商人でにぎわった。

⑥　年中行事

住吉大社の年中行事は３世紀の終わりから現在まで続いている。

現在は１年間に１３０余りの恒例の祭典があるが、そのほとんどは明治時代に画一化された官祭である。その中で特に有名な行事は、「踏歌神事」「白馬神事」「卯の葉神事」「御田植神事」「神輿洗神事」「住吉祭（夏越大祓）」「宝ノ市神事」の７つである。

踏歌神事　……　毎年１月４日に行われる。祝詞が奏上の後、直垂を着用した所役のうち、小餅を入れた袋を持った所役が庭に出て神前に向かって立ち、梅の楮を持った所役に向かって「ふくろもちー」と呼びかける。袋持の所役は「おーともよー」と答えながら前に進む。これを３回行い、２人の所役はすれちがってその位置をかえ、袋持の所役はそのまま神前に進み、袋の中の小餅を取り出し「一、二、三、四……十」と数えながら案上に献げ、「万歳楽」と３回唱え、拝礼して退く。続いて神楽女の１人が笛に合わせて「白拍子の舞」をし、再に八乙女の「熊野の舞」が奏でられて神前の式が終わる。続いて各本殿で福の餅がまかれる。この餅を得ると幸福が授かるといわれている。

白馬神事　……　毎年１月７日に行われる。この神事は古くから朝廷で行われていた。奉行の神人の２人が、神馬につきそって第一本宮の庭に出て神職が祝詞を奏上する。次に神馬舎人は神馬の口を取って拝礼し、第二本宮・第三本宮・第四本宮で拝礼する。その後第一本宮の周囲を北から２回駆け廻る。最後に各本殿の外部を１周し、第一本宮で拝礼して退出する。春のはじめにこの白馬を見ると年中風邪を遠ざけ、わずらいがないと言われる。

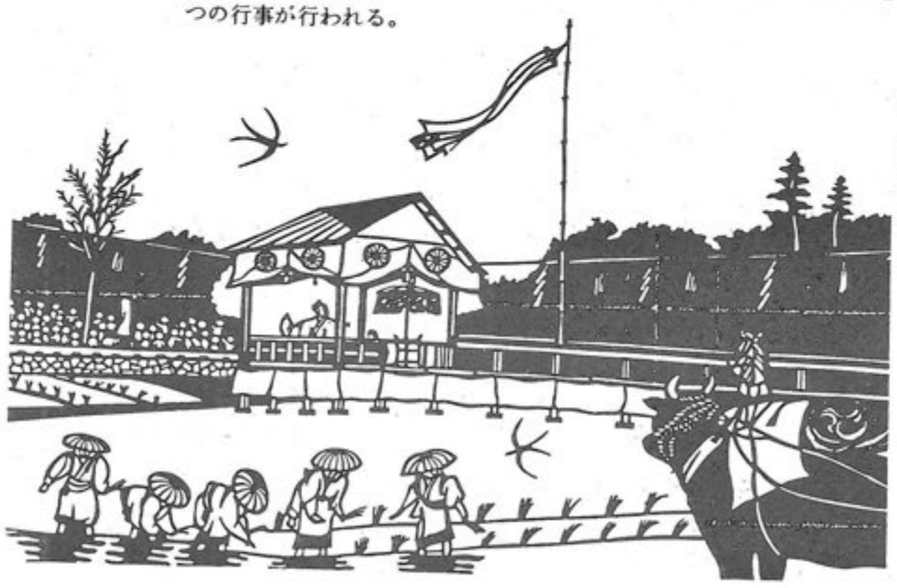
卯ノ葉神事 …… 住吉大社の御鎮座は、神功皇后の摂政十一年辛卯年月上の卯の日と伝えられている。この神事はその記念の祝祭として神輿や卯ノ葉女の奉仕によって盛大に行われる。昔は毎年卯月（陰暦４月）の上の卯の日に行われていたが、明治時代からは太陽暦になったので、卯の花（うつ木）の咲く５月のはじめの卯の日に行われるようになった。

始めに各本宮と五所御前（神功皇后が住吉大社の鎮座地を定める時、杉の木に鷺が３羽止まったので、大神の思召にかなうものとしてここにはじめて奉祀したと伝えられる。「高天原」とも呼ばれている。）に卯の葉の玉串を捧げ、第一本宮にて祝詞が奉上される。次に巫子さんのお神楽に続いて閉院流福井北勝洞社中による献香、土本清甫社中の献茶等、荘厳な祭典が行われる。最後に石舞台で天王寺楽所雅亮会の方々が豪華な衣裳に卯の花のかんざしをさして舞楽を奉納し、行事が終わる。

御田植神事 …… 毎年６月１４日に行われる。神功皇后が長門国から植女（うえめ）を召して、御供田を植えつけられたことに始まるといわれている。昔は日を定めず、晴天の日を選んで行われたが、大永八年(1528)以後、５月２８日に行われるようになり、明治の改暦とともに６月１４日になった。

この行事が行われる御田は、境内の南のはしにある２０ａほどの田で、中央に四間四方の舞台を設けてあらかじめ飾牛で代掻が行われている。

当日は、まずはじめに全員で御田の周囲を一周し、次に太田主が神田に神水を注ぐ。そして賛植女が舞台に進んで早苗を受けとり、御田に降りたつといよいよ植え付けが始まる。植付けをしている間に、舞台と田の畔では「田舞」「神田代舞（みとしろまい）」「風流武者行事」「棒打合戦」「田植踊」「住吉踊」の６つの行事が行われる。



御田植神事

神輿洗神事 …… これは舟で住ノ江の海の水をくみ、その水で神輿を祓い清める行事で、毎年７月の第３土曜日の夕方に行われる。その夜、神輿は住吉公園内の高灯籠に奉安する。そして、翌日の夜に住吉大社に還御し、祭典を終わる。

この人事は古くから「住吉のおゆ」と呼び、当日長峡浦の潮水につかると病気が治るといわれたので、遠方からもたくさんの人が集まった。現在は南港で御祓が行われる。

住吉祭 …… 住吉祭は、夏越御祓ともいい、「おはらい」の祭である。古くは旧暦６月晦日に行われたが、明治時代の改暦とともに７月３１日に行われるようになった。

この日の夕方、神職以下がかやの葉の管貫（すがぬき）で身体をなで、かやで作った大きな茅（ち）の輪をくぐって河原にこれを捨てる。このお祓を受けると、夏に多くなる疫病や災害が祓い流せるといわれる。

＜主な年中行事＞

行事	月日
元旦祭	１月　１日
踏歌神事	１月　４日
白馬神事	１月　７日
松苗神事	４月　３日
卯の葉神事	５月初の卯の日
御田植神事	６月１４日
神輿洗神事	７月第３土曜日
	７月第３日曜日
宵宮祭	７月３０日
夏越大祓	７月３１日
宝ノ市神事	１０月１７日
新嘗祭	１１月２３日
除夜祭	１２月３１日
卯ノ日祭	毎月初の卯の日
初辰祭	毎月初の辰の日
海上安全祈願祭	毎月２０日
交通安全祈願祭	毎月２０日

宝ノ市神事 …… この神事は１０月１７日に行われる。昔は陰暦の９月１３日に境内の北端にある玉出島頓宮で相撲が十番行われていた。

この神事はわが国の市のはじまりであると言われ、神功皇后が三韓からの貢物をはじめ、百貨を庶民に売ったと伝えられている。

現在は祭典のみ行われるが、以前は大阪南地五花街（なんちごかがい）より奉仕する市女（いちめ）が五穀（ごこく）を桝（ます）に入れて供進し、斉女（いつきめ）が紅白の糸の束を奉り、稚児が絹布を献じて商売繁盛・五穀豊穣を祈願する華やかな祭だった。

昔はこの市で桝を多く売ったため「桝の市」ともいわれた。

「天下の台所」といわれるほどの商都、大阪にとてもふさわしい行事だといえる。

⑦　楠珥社

住吉大社境内にある楠珥社は、毎月初辰（はつたつ）の日に行われる祭「初辰さん」の名で親しまれている。「宇迦魂大神（うかたまのおおかみ）」を祭神とするお稲荷さんで、樹齢千年を経た今日でも青々と茂る楠の大樹に

守られている。「初辰さん」というのは、商売繁昌・除災招福を願って行われている祭で、４８回の月詣りを重ねると願いがかなうといわれている。４８回も月詣りを行うのは、「四十八辰」と「始終発達」をかけて、運勢の向上を願うためである。この月詣りをする人は、社頭で土製の「まねき猫」を受けて帰る習慣がある。初辰さんのまねき猫は少し変わっていて、羽織を着て袴をつけ、招いている手は月ごとに左右交互になっている。

江戸時代、神秘な霊力を持つ楠の木に祈りを捧げたのが始まりで、明治の始め、小さな祠にお稲荷さんを祭り楠の木の霊をたたえ「楠珺社」と名づけて今日に至る。

⑧　住吉神宮寺

住吉神宮寺は、天平宝字２年（７５８）、孝謙天皇が建立したと伝えられている。

旧名を新羅寺といい、住吉大社と大海神社の間に建っていた。住吉の三大寺のひとつに数えられたほどの壮麗な寺だったが、明治初年の「神仏分離令」により廃寺となった。

新羅伝来の本尊、薬師如来像や、定朝作といわれる仏像は残っていないが、東西の大塔のひとつが徳島県の切幡寺に移され残っている。

現在まで受けつがてれいる住吉踊りをひろめたのは、この寺の僧といわれている。

Ⅳ　結果・結論

・住吉大社は住吉区住吉町に御鎮座。
・境内は約１０万㎡で、大阪市内とは思えないほど広く、緑が多い。
・摂津の国の一の宮（平安時代に国々の国司が巡拝したとき、一番始めに巡拝した神社）。
・２０年に一度の式年遷宮が奈良時代から鎌倉時代まで行われた。
・古くから航海守護の神、和歌の神、おはらいの神、農業の神として崇敬されている。
・本殿は「住吉造」という、直線の美しさを利用した建て方になっている。

Ⅴ　総　　括

住吉文華館の神主さんが、一つ一つ親切に説明してくださったのでよかった。わりと身近なことについて調べたので、研究がうまく進んでよかった。今まで知らなかったこと、知りたかったことがわかったので良かった。写真を撮りに行ったり、図書館へ何度も資料を探しに行ったりする事は、暑くてたいへんだったけれど、やりがいがあってよかった。文献や資料によって調べただけなので少しもの足りないような気がした。来年は、もう少し自分の足で歩いて知ることができるような研究をしたい。

Ⅵ　参考文献

「住吉大社」（住吉大社宮司）西本　泰　＜学生社＞
「住吉大社略記」住吉大社社務所　＜住吉大社社務所＞
「住吉区スタンプラリー」住吉区制６０周年記念事業実行委員会　＜住吉区制６０周年記念事業実行委員会＞
「郷土資料辞典」＝大阪府・観光と旅＝　＜人文社＞
「かみがた市民情報」＝６２年７月号＝　よみうり市民情報編集室　本杉桂子　大竹三紀　＜読売企画販売株式会社＞
「住吉さん」＝社宝と信仰＝　相蘇一弘　＜大阪市立博物館＞